



「Boulanger M」店内で撮影

● Boulanger M(西本町3)
☎ 025-520-8880

まずは相談を

事業承継の相談窓口

事業承継を行うには、十分な準備と時間が必要です。何から手をつければ良いか分からぬ場合などは、お気軽にご相談ください。

- 産業政策課
☎ 025-520-5729
- 新潟県事業承継・引継ぎ支援センター(新潟市中央区万代島5-1)
☎ 025-246-0080

毎月開催

出張個別相談会

市では、センターと連携した個別相談会を開催しています。「後継者がいない」「事業の引継ぎが不安だ」など、皆さんのご相談を専門家がお受けします。秘密は厳守されます。

次回開催日程

- 日時
令和8年1月20日(火)
午後1時~5時(相談時間=1社50分)
- 会場
市役所第二庁舎
- 申込期限
1月13日(火)まで
市ホームページなどから



第三者承継(M&A)

専門機関のサポートにより 新たなパートナーへ経営を譲渡

令和6年、センターなどのサポートにより、約1年かけて第三者承継を果たした、まちのパン屋さんの事例を紹介します。「引継ぎ者」「引受者」「仲介者」3人それぞれの立場から事業承継の経緯や当時の思いなどについて語ってもらいました。

—事業承継の「きっかけ」は 個別相談会への参加

田中さん 営んでいたパン屋の事業承継を考え始めたのは令和6年の7月頃です。東京での修行後、上越に戻り独立開業してから10年、40代になりこのまま年を重ねても同じ働き方で続けていけるか不安に感じ始めた時期でしたね。また、パンの品質にはこだわりがあるので、世界情勢の変化による小麦など原材料費の高騰への対応にも悩まされていました。そんなときに「広報上越」で、事業承継の「個別相談会」の記事を見つけ参加することにしたのが、事業承継の第一歩でした。

高橋さん その相談会で初めて田中さんとお会いしたのですが、話をする前から明らかに悩んでいた表情をされていましたね。

松井さん 当事者同士では直接聞きづらいこともありました。高橋さんからはお見合いの仲人役のような存在として、お互いの考えをまとめながら仲介してもらいました。専門的な知識が必要な部分もサポートしてもらえた、とても心強かったです。

田中さん 本当に、何を相談したらよいのかも分からなかったのですね。「今回相談してだめだつたら、将来的には廃業もやむを得ないかな」と考えていました。パンを作るのは得意でも、それを売ることは難しいと感じていたので、高橋さんにはそんな悩みも正直に伝えました。

—ものを「作る」人と 「経営する」人をつなげる

高橋さん ものを「作る」ことと「経営する」ことの違いは、事業承継を考える上で大きなポイントです。今回田中さんにご紹介した松井さんは、すでにさまざまな事業を展開されていました。「経営」の部分を松井さんにお任せし、田中さんはパン作りに注力できるような承継の形がよいのではと考えました。

—事業承継は企業同士の 「結婚」

田中さん 自分の力だけでは、私のパン作りへのこだわりに共

感いただき、経営を担つてくれださる松井さんのような人に出会えなかつたと思います。あとと、高橋さんに相談したからこそ、今も同じ場所、同じ店名でこの仕事を続けられていると思います。

松井さん 業同士の「結婚」だと思います。その成否には、私たちのような仲介者がいかに買い手・売り手の事業内容を深く理解し、「相互の成長につながる橋渡し」ができるかということも大きく影響するかと、身が引き締まる思いです。

—早期に動けるようにまずは 「相談」を

田中さん 承継を通じて価格改定や働き方改革などの経営改善をすることことができた結果、若手の職人を採用することができ、

技術を次代につなげる環境も整いました。これからも、おいしいパンを作つて地域のお客さんには喜んでもらいたいです。**松井さん** 事業承継はゴールではなく、新たなスタートだとうことを今回実感しました。自身も、いつか誰かに引き継ぐそのときのため、考え続けていかなければなりません。

高橋さん 事業承継を考える時は人それぞれですが、動き出しが早ければ早いほど選択肢が増えます。私たちセンターはもちろん、まずは身近な信頼できる人に相談してみてください。

今回の承継の流れ

- ①個別相談会に参加
- ②専門家を介した承継先候補の調査・検討
- ③承継先候補との面談・打ち合わせ
- ④事業承継完了